

# キラリ 熱中時間

深谷市にゆかりがあり、市内外で活躍する個人や団体を紹介します。

楽しみながら川本南小学校田んぼアートづくりを支える

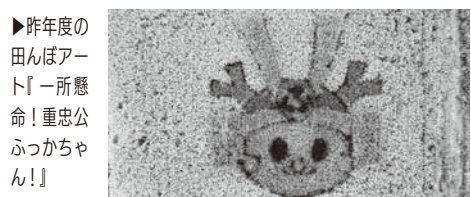


川本南小学校  
田んぼアート応援団  
なかむらたいすけ  
中村泰典さん  
次の代へつなぐ  
伝統の田んぼアート

紫やピンクなど数種類の色米を使って、児童考案のデザインを田んぼに描く川本南小学校の田んぼアート。15年前から続くこの活動を地域ボランティアの中心となって支えているのが、中村泰典さんです。

もともとは、総合学習として行っていた稲作で、何か面白い取り組みをしようということから始まり、中村さんたち地域ボランティアの方々がゼロから手探りで田んぼアートの作り方を研究し、苗づくりから収穫祭まで子どもたちの活動をサポートしています。

田んぼアートのポイントを中村さんに伺うと「稲の高さや穂が実るタイミングが一緒でないとアートには使えません。だから、品種選びが重要なんです。」と長年の経験によって学んだポイントを教えてくださいまし



▶昨年度の田んぼアート「一所懸命！重忠公ふっかちゃん！」

◀中村さんたち地域ボランティアが児童に「もみふり」を教える様子

た。毎年進化を続けながら川本南小学校の伝統となっている田んぼアート。長年続く秘訣は3つあると中村さんは語ります。1つ目は、東日本大震災の際に食糧援助として始まった、収穫したもち米を友好都市の岩手県田野畑村の小学校へ送付する活動を今でも継続して行っている点です。また、2つ目としては、毎年この活動を中心となって行う5年生が、収穫後に餅つきをして全児童に振る舞い、子どもたちみんなで食べて活動を共有することです。そして3つ目は、主役である子どもを尊重しながら、支える大人たちが楽しむことです。この3つの秘訣により、続いてきた川本南小学校の伝統を、次の代につなぐという熱い想いを胸に中村さんは今年も子どもたちの田んぼアート活動を応援し続けます。

## 男女共同参画情報コーナー

ともに認め合い 支え合う 元気と笑顔で参画するまち ふかや  
 関人権政策課 ☎574 - 6643

6月23日～29日は男女共同参画週間です！



今年のキャッチフレーズは、  
**無くそう思い込み、守ろう個性  
 みんなでつくる、みんなの未来**

深谷市では、『男は仕事、女は家庭』といった性別による固定的な役割分担意識にとらわれることなく、お互いを認め合い、それぞれの個性と能力を発揮できる男女共同参画社会を目指し、『第4次深谷市男女共同参画プラン』を基に取り組みを進めています。

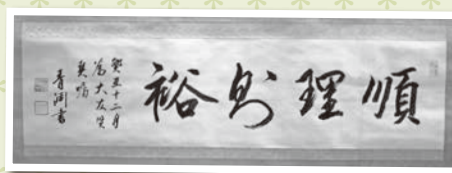
男女共同参画社会を実現していくためには、市民の皆さん一人ひとりの取り組みが必要です。この機会に、私たちのまわりのパートナーシップについて考え、みんなで『男女共同参画社会』を作っていきましょう。

ふっかちゃんの日常から  
深谷が見えてくる

## ふっか散歩

県立歴史と民俗の博物館出張展示 in 深谷

今日は、渋沢栄一記念館で開催されている共催展『県立歴史と民俗の博物館出張展示in深谷 書画から見よう栄一と惇忠』にやってきましたよ。普段は県立歴史と民俗の博物館で展示されている資料などを、今なら深谷で見られるんだよ。早速行ってみたい。



◀これは、栄一翁が揮毫した書だよ。栄一翁の座右の銘が書かれているんだってえ。



◀大きな栄一翁の肖像も展示してあったよ。普段は深谷で見られないから、今回の展示でぜひ見ておきたい作品だね。

▲栄一翁の師でもある尾高惇忠さんを描いた「尾高藍香先生之肖像」だよ。惇忠さんは「藍香」という雅号で、この肖像は43歳の頃の惇忠さんを描いたものなんだってえ。

ふっかちゃんのつづやき  
 6月28日(水)は、ふっかちゃん13回目のパステイ！  
 これからも、ふっかちゃんをよろしくおねがいしますY(o)uO(0)Y



## 心の広場

上柴東小学校5年(現6年)  
吉本 絢祢さん



わたしがゆずらなくても・・・

わたしは、公共施設などで人に席や、すわっている場所をゆずるのが苦手でした。それは、声をかける勇気があまりなくはずかしいし、ゆずってしまうと自分のすわる場所がなくなり立っていないといけなからです。

ある日、眼科に行きずつと叫ばれるまですわっていました。何分かたち、「ドン！」  
 ドアが開き、お年寄りの方が入ってきました。こしが曲がってすごく大変そうでした。しかし、わたしは、「席があいているから大丈夫だよ・・・」  
 と思いました。目の検査が終わり、すわっていると、お年寄りの方が立っていました。でも、わたしは、「わたしがゆずらなくてもちがう人がゆずってくれるよね。」  
 と思ってそのまますわっていたらお母さんが「絢祢ゆずってあげなさい。」  
 と言いました。お母さんが

「どうぞ。」  
 とおじぎをしているのを見て、わたしもつづけておじぎをしました。お年寄りの方は、「お利口なお姉ちゃんだね。」  
 とほめてくれました。お母さんもほめてくれて、わたしはうれしくなり、席をゆずるのは勇気が必要だけど、やさしさや思いやりもその何倍も必要だと思いました。手助けをすれば、人も自分も心がきれいになりうれしくなる。きっと見ている周りの方もうれしい気持ちになるのではないかなと思います。わたしは、今でもそのお年寄りの方の笑顔が忘れられません。今度は、人から言われてゆずるのではなく、自分から積極的にゆずりたいと思います。

このことでわたしは、一人一人の考え方はちがうけれど、少しの思いやりがあれば大きくなり、やさしさや協力につながるのではないかなと思いました。自分がお年寄りになったときに、席をゆずってもらったら、ぜっ対にうれしくなると思います。次は、席以外にも、困っている人に声をかけるなど、親切な言葉や、行動を行いたいです。

社会だけでなく、学校などでも、自分にはできないからとあきらめずに、勇気をもってチャレンジしていきたいです。チャレンジして失敗しても、それが自分の力になると思います。目標をもってがんばることは、成長の第一歩だと思うのでわたしも、その第一歩をふみ出せるように行動していきたいです。